

# 北東京エリア ふれあい橋の会 議事録

## ～キッズタウン東十条保育園～



日時： 2026/03/16 14:15～15:30

場所：キッズタウン東十条保育園

事業所概要：平成 23 年 4 月 1 日設立

保育定員：91 名

出席者委員：伴野 康 委員

新田恵美 委員

風間美子 委員

エリア：布施総合施設長

小林園長 小島副園長

### 施設案内

#### 1階 廊下 掲示板前

(小林) キッズタウン東十条保育園は、保育のみの単独施設です。私は3年前に異動してきましたが、介護・障害施設との併設施設であった以前の事業所とはまた違い、法人の規模間や全体の取り組みについてなどが中々伝わりにくい環境であるなど感じました。保育運営と共に、地域貢献も考えていくことや、働くうえでのメンタルヘルスや健康経営についても含め、法人が目指していることやそれらの取り組みについてなども知ってもらえないかと、職員が良く通る廊下掲示コーナー作り、お知らせ等を次々掲示していきました。その他にも、利用者(ご家族)アンケートや、職員意識(組織)アンケート結果も掲示、自分たちが働く職場について知り、自分たちの働きについての結果を知ること、また次を目指して職員たちは今も皆で頑張ってくれています。



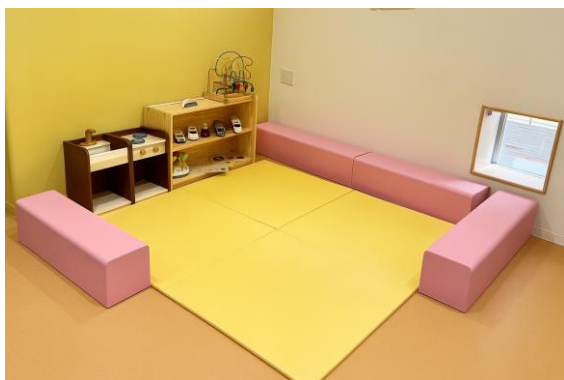
### 1階 病後児保育室 “すずらん”

(小林)病後児保育については、昨年10月から北区の主導で病児・病後児保育予約システムが稼働、これまでは電話予約でしたがアプリからの予約に移行しました。北区内にある4つの事業所での共通アプリ予約です。当園の病後児保育室の定員は4名です。発熱については、38度代までは、水分・食事が取れるか様子を見ますが、それ以上は保護者に連絡してお迎えを依頼します。通常の保育園での基準よりは緩やかに、病気が回復へと向かっていくようゆったりと過ごせるように努めています。また、手術の術後の安静や骨折など外科的な理由で集団保育がまだ困難である子どもも受け入れています。利用料は1日2,000円です。



### 2階 北区 子育て応援モデル事業“あさがお”保育室前

(小林)北区 子育て応援モデル事業は、在宅で子育てをしている家庭を対象に、理由を問わず預かる子育て支援事業です。週1~2回の利用で、現在は応募者多数の為、2ヶ月交代、1クール12家庭を受け入れています。応募は毎回40組以上あり、都度抽選となっています。当時の北区保育課の担当課長が「子育て支援」ではなく「子育て支援」という言葉に重



きを置かれていて、保護者を支援するだけでなく、お子さんが様々な経験をする機会を提供することを大切にしたいと話されていたのがとても印象的でした。保育園で給食を食べる経験、友達と遊ぶ経験、先生や他の人と触れ合う経験を通じ、保護者の方からは、1ヶ月でも子どもの変化や成長が見られると喜んでいただくことが多いです。

### 3階の砂場 ~ 外階段 ~ 4階のテラス

(小林)3階砂場や4階テラスの上に天蓋を設置しました。前年の夏は猛暑のため、外遊びがほとんどできず、子どもたちに窮屈な思いをさせてしまいましたので、次の春夏に向けて対策を講じています。東十条は建物がグッドデザイン賞を受賞しており、モダンで特殊な設計のためか修繕や工事の度に業者さんからは「規格外のサイズで難しい」と言われるのですが、

無事に取り付けられて良かったです。外階段の手すりや水回りの等、雨ざらしのところは特に、サビやクラックが目立ってきており、修繕の必要性があると思います。見積もりでは百万円以上の費用が見込まれており、作業には足場を組む必要があるので、複数箇所の修繕と一緒にできればと計画しています。



## 5階 屋上にて

(小林) キッズタウン東十条は園庭がありませんが、3階砂場スペース、4階テラス、5階屋上庭園を活用し、子ども達もよく遊んでいます。また、近隣の公園にも出かけ、体を動かす活動も意識的に取り入れています。屋上庭園にはわずかながらも植栽があり、花が咲いているのを見つけたり、実がなるとプリンカップに実を集めたりして、少しでも、自然に触れる機会となれば良いと思っています。

また、眺めもよく、JRさんより用地を借りている施設でもあるので、常に、電車や新幹線、工事車両などが見られ、子どもたちにも大人気の場所です。

JRさんには行事の際にもご協力いただき、子どもサイズの駅長服を貸して下さったり、東十条駅オリジナル缶バッジを作ってくださいたりと、これまでもずっと良く交流をしてくださいました。また、近隣の消防署、近くには保育士養成校(家政大学や成徳大学など)もあって、関係機関との連携も良好です。区役所も近く、保育課の職員の方も良く訪問してくださいます。

## 会議室に移動、意見交換

実習生の受け入れについて



(小林)養成校が近いため年間 3~5 名の実習生を受け入れています。同じ法人内でも実習生が来ない園もある中、恵まれた状況ですね。学校の先生から当園を推薦していただき来られる学生さんもいて、地域機関との関係性を大事にしていくことの重要性を感じています。実習生の中から就職につながるケースもあり、貴重な採用機会ともなっています。

定員状況について

(小林)来年度も定員数いっぱいでのスタートとなっています。駅近という立地の良さもあるかと思えます。一方では、子どもの数は減少傾向にあり、場所によっては定員割れする保育園も出てきています。

熱中症対策について

(小林)昨年の夏は気温が高すぎてプールに入れなかった状況が続きました。副園長と相談し、朝9時から10時までの時間帯にプールを実施することで対応しました。ご家庭に協力を呼びかけ早めに登園してもらい、すぐにプールに入る体制をとりました。2年前には真夏に3階の保育室のクーラーが故障し、冷風機を6台レンタルして1ヶ月ほど凌いだということがありました。子どもたちは健気で、「先生、ここ(冷風機前)に立つと、風が冷たくて気持ちいいんだよ」と話してくれ、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。エアコンのメンテナンスを行い、3階、4階のテラスには天蓋を取り付けました。



### 委員の方からの質疑応答

(伴野康委員)屋上を見て、電車側のほうは広い敷地なので大丈夫だと思いますが、反対側はマンションが近く、近隣の方との関係などはいかがですか？

(小林)前に屋上で水鉄砲で遊んでいた際、飛んで水が通りを歩いていた方にかかり、電話で注意を受けたことがありましたが、それほど大きな苦情などもなく、向かい側のマンションの方々も含め近隣の方とは、良好な関係を築いています。コロナ前には近隣の店などとも交流がありました。今後、再開していきたいです。駐車トラブルなどから近隣トラブルに発展するケースもあるため、注意をしながらやっていきたいです。

(風間美子委員)屋上で水道の所の外壁が剥がれていましたが、修繕状況などはどうですか？

(小林)設備の老朽化対策については開園から14年目を迎え、外壁のシミ、階段手すりのサビ、水回りのクラックなどが目立ってきています。特にサビは子どもが触れる可能性があるため、安全面での懸念があります。法人本部にも状況を伝え、修繕費の積立を活用して進める予定であります。

(新田恵美委員)保育室の掃除などは、業者の方とかが入っているのでしょうか？

(小林) 清掃業者は入れておらず、非常勤職員さんの力も借りながら施設の美化について対

応をしています。ただし、床面広範囲の専門的な清掃は業者に依頼をしました。職員も、保護者の方からも、とても綺麗になったと喜ばれました。また、人員が不足している状況もあるので、ホールの清掃にはルンバを活用しています。人件費をかけるべきか、機械や業者を活用すべきかを考えながら、時間・人・お金を効率的に使うことの重要性が必要となりました。



(風間美子委員)アレルギー対応について、本来はアレルギー食のラインを別にすることが原則だが、どのようにしていますか？

(小林)今は、トマトアレルギー(生のトマトのみダメな子とケチャップもダメな子がいる)、キウイ、バナナなどの果物についてのアレルギーなども増えています。

(風間美子委員)小学校では小麦粉は米粉で対応するなど、栄養士も工夫しているようです。また、対応できない場合はお弁当持参としているケースもあるようです。

(小林) 宗教食についても対応を考える場面がありました。小さいうちは食材も調味料も多くは使わないので対応できましたが、幼児クラスになった時は、困難なことも予想されました。途中、転園され、今、対応はありませんが、宗教食となる豚肉のような食材だけでなく、エキスやアルコール(調味料だけでなく食器清掃用のアルコールも含む)までを気にされる厳格なご家庭もあります。給食委託業者のほうでも厳格な対応までは受けられないため、保育園でできることの範囲を提示し、保護者と相談しながら対応していきたいと思っています。

(新田恵美委員)連絡帳などは、いつ記入されていますか？

(小林)主に午睡中に書いています。保育 ICT システムやタブレットの導入により、連絡帳はタブレットで作成するようになりました。若手職員はタブレット操作に長けており、スムーズに対応しています。ベテラン職員の中には、始め、操作に苦労をする方もいらっしゃいましたが、若手職員に教わりながら覚えていきました。若手職員は、保育のことなどをベテラン職員に教わり、ICT や AI については若手の職員から教わるということも、園職員の良い関係性づくりに繋がっているかと思います。実際に、病後児保育の予約システムや子育て応援モデル支援事業の予約システムも始める際、若手職員に作成をお願いして、新たな活躍の場が作れたかと思います。

(小島)実習生の対応について、担当をしています。実際に、三角巾という言葉が通じず、バンドナと説明する必要があったなど、言葉の世代差を感じています。8時半に保育室に入れるように来てほしいと伝えても、何時に来たらいいか質問されるなど、時間配分の理解が難しい学生もいます。しかし、保育士を目指している実習生の夢を奪わないよう、丁寧に接し、

説明することが重要だと思っています。

(新田恵美委員) コロナ世代の特徴について、コロナ禍に学生時代を過ごした世代は、ICTには得意だが、実際の対人関係や関係作りには緊張する傾向がありますね。

(小林) 実習日誌をパソコンで作成する学生が増えています。養成校の先生も、途中経過などが確認できるシステムを利用されているそうです。

(新田恵美委員) 大学の授業も講義型からディスカッション型に変わってきており、入職してくる職員の受けてきた教育が異なることを認識する必要があるかと思います。一方で、「知っていて当たり前」と思われることを知らない学生もおり、どこまで教えるべきかのバランスを考えることも課題となっています。

(小林) 様々な仕事がある中で保育を目指してくれた人材は貴重です。難しい面があるからといって「合わない」と切り捨ててしまうのではなく、これから先に、しっかりと育てていくことが大事なのだと思います。自分たちの持っているセオリーとは明らかに違う世代ですが、保育を目指してくれたことに感謝し、育成に力を入れていきたいです。

(小島) 今年から副園長になりました。管理職の役割についてや主任から副園長に立場が変わったことで見方も変わり、園長が言うことの意味なども理解できるようになりました。現場にいるときは現場のことでいっぱいだったが、立場が変わると実習生の受け入れの重要性なども理解できるようになりました。

(小林) 人件費をかけるべきか、機械や業者を活用すべきかを考えることも管理者の役割であり、時間・人・お金をうまく使っていく必要があります。自分はこれまで保育の勉強しかしてきませんでしたが、組織運営や経営についても学ぶ必要性があると感じています。

また、こうほうえんのような、大きい法人・組織で働くにあたっては、総合施設長と相談し、本部への報告や施設の修繕・新しい事業取り組みについても、知識とプレゼン力が必要になるとつくづく感じています。職員からの「これを買っていいのか」、「これをやってもいいのか」という質問には、職員の意欲も感じます。これからもより良い施設にしていくために、施設設備への投資と業者への依頼を少しずつ進めているところです。

(布施) 本日はありがとうございました。

次回は4月を予定していますが、改めてご相談申し上げます。

